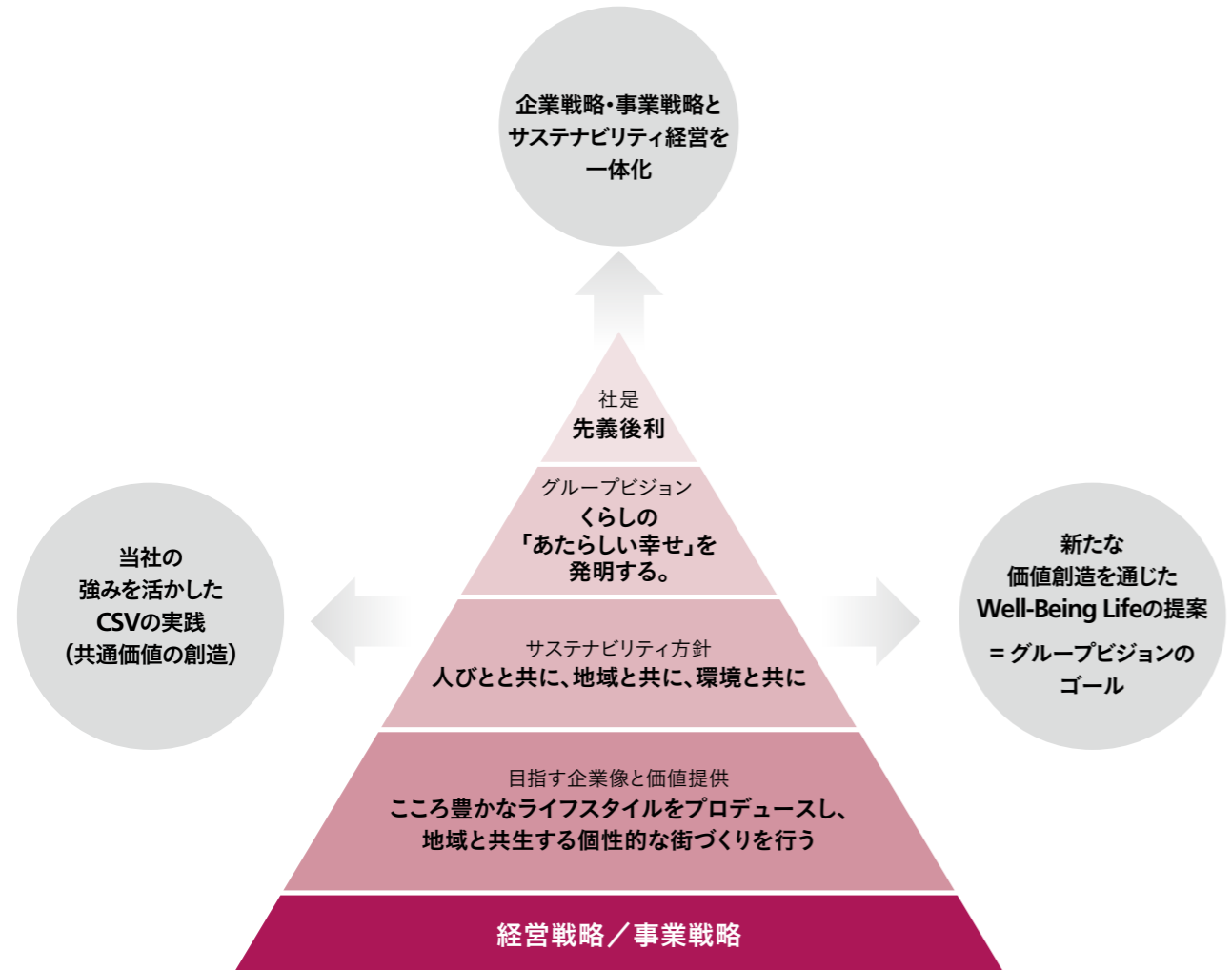


サステナビリティ経営

当社グループは300年、400年という歴史の中で数々の危機に遭遇してきました。そうした状況に直面するたびに、「先義後利」という社是に立ち返り、お客様や社会の変化を機敏に捉えながら事業活動を愚直に実践してきたことが、今日の経営につながっているものと確信しています。社会との共存なくして企業の発展はありません。いま経営には、一層の長期視点により、社会に存在意義を放つ将来のあるべき企業像を描くことが不可欠となっています。環境や社会、人権などの課題から目を背けて企業活動を行うことができないのは明らかです。そうした解決に向けたサステナビリティの概念を企業戦略および事業戦略に組み込むことにより、将来の成長に向けた持続可能な経営の枠組みを獲得できるものと考えています。

社是を基軸にサステナビリティを経営の中核に据え、事業活動を通じた社会課題の解決に取り組むことにより、社会的価値と経済的価値の両立をはかっていきます。



マテリアリティの見直し

資源枯渇や食品・衣類の廃棄といった世界的な社会課題解決に向け、近年、欧州を中心にサプライチェーン全体での循環型経済への取り組みとして、新たなビジネスモデル創出に向けた動きが加速しています。消費者においても、エシカル消費や、フェアトレード、トレーサビリティ、リサイクルへの関心が高まるなど、環境への意識が大きく変化してきています。

また、今般のコロナ禍を契機に、感染予防を念頭においた安

全、安心をはじめ、ウェルネス、ヘルスケアなどへのニーズが高まり、新しい価値観、生活様式が定着しはじめています。

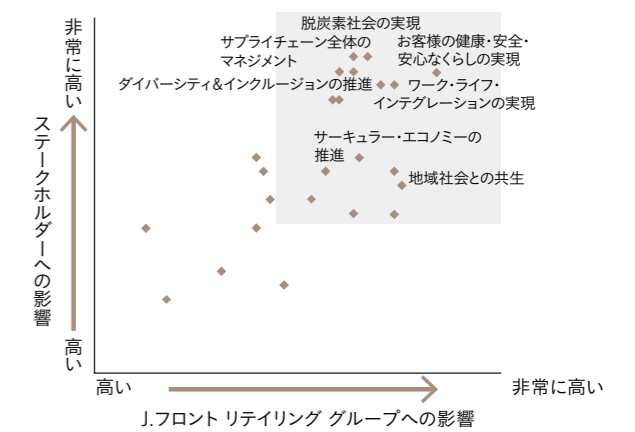
こうした状況を捉え、経営会議および取締役会で論議を重ねた結果、これまでに特定した当社の5つのマテリアリティ(重要課題)に、新たに「サーキュラー・エコノミーの推進」「お客様の健康・安全・安心な暮らしの実現」の2つを加えることとしました。

一方、既存のマテリアリティにおいても一部見直しを行いました。具体的には、「低炭素社会への貢献」については、国内外における脱炭素への意識の一層の高まりを受け、「脱炭素社会の

実現」と改め、取り組み内容を強化することとしました。また、「ダイバーシティの推進」については、「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」、さらに「ワーク・ライフ・バランスの実現」は「ワーク・ライフ・インテグレーションの実現」にそれぞれ更新し、社会の変化を踏まえた取り組みへの高度化をはかりました。

今後は、これら7つのマテリアリティについて、リスクと機会の両面を捉え、それぞれのマテリアリティでビジネスチャンスを創出し、社会的価値と経済的価値の両立を実現することを目指していきます。

J.フロントリテイリンググループのマテリアリティマップ



7つのマテリアリティ



マテリアリティの特定プロセス

